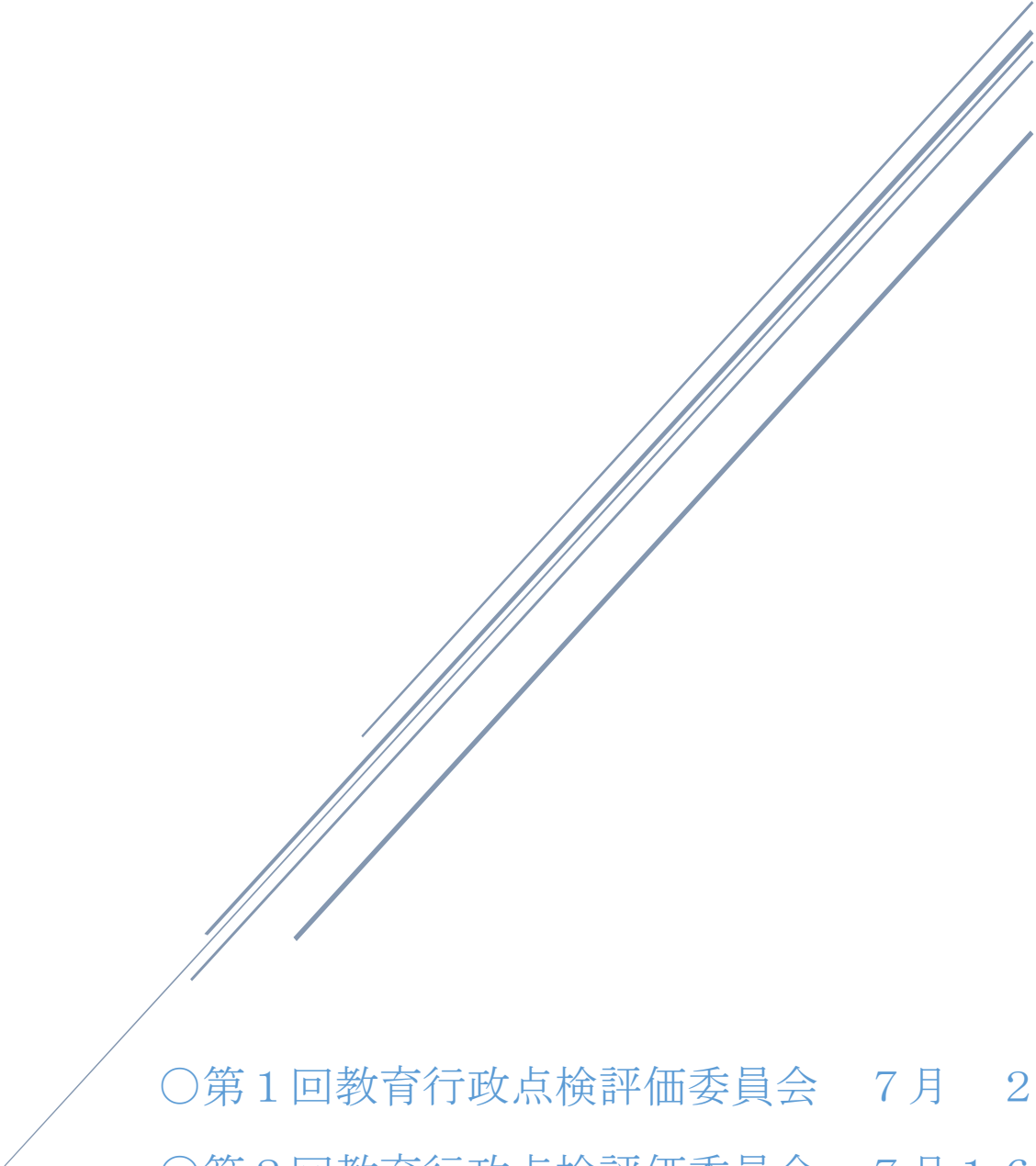


さいたま市教育行政点検評価委員会

【意見のまとめ】

- 
- 第1回教育行政点検評価委員会 7月 2日
 - 第2回教育行政点検評価委員会 7月16日
 - 総括 8月 6日

◆ 教育行政点検評価委員会委員の意見

1 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成

(1)「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の実現に向けた授業改善の推進

- ・学習者の視点でアンケートをとることは、「主体的な学び」を支援する上で、高く評価できる。
- ・学習者が選択する対象に、現在の学びのプロセスに加え、「学習の目標と評価」といった、学びのゴール設定も含めて、更なる「学習者の自立」を目指していただきたい。

(2)「さいたま市スマートスクールプロジェクト（SSSP）」の推進

- ・アウトカム目標を明確に設定している点は高く評価できる。
- ・ICT が主となることで、発達段階にある子どもの視力の低下や精神的な成長への懸念があるので、統計をとるなどして人体への影響について検討を進めることを期待する。
- ・さいたま市は規模が大きいので、AI の利用について教員間の認識に差が発生するものと考えているが、市で一定のレベルを維持し、成果に結びついている点や、多様性を有する中であっても、全体として大きな差が見られないことは、高く評価できる。

(4) スクール・ミッションを踏まえた市立高等・中等教育学校の更なる特色化・魅力化の推進

- ・全市展開という観点で、自主的な学びを支える力量を備えた教員を育てていただきたい。
- ・海外に進学した卒業生のことを在校生・保護者にフィードバックしていただきたい。優れた取組が展開されていることから、その価値や成果がより広く共有されるよう、広報活動の充実を期待する。

(8) 学習状況調査等の教育データを利活用した教育支援の充実

- ・学力向上ポートフォリオについて、以前は十分に活用されているとは言い難かったが、今は 96% の職員が活用している。学校・教育委員会が実績を作っていることを保護者に対して一層積極的に広報・周知を行っていただきたい。

(10) 生涯にわたり深い学びを支える子ども読書活動の推進

- ・子どもがデジタル環境で文字を読むことができる環境を整備してはいかがか。スマートフォンでも短編でもよいので文字を読むことを習慣化するための取組についても検討していただきたい。
- ・読解力が上がっているのに読書量は減っているとの結果に対して、分析が必要ではないか。

◆ 教育行政点検評価委員会委員の意見

2 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成

(1) 世界のとびらを開く「グローバル・スタディ」の更なる進化

- ・埼玉大学にはさいたま市のグローバル・スタディ科教員を志して入学してくる学生もあり、さいたま市の英語教育や大宮国際中等教育学校が存在が教員のリクルートにもつながっていると評価している。
- ・さいたま市は学校に ALT の方や海外にルーツのある児童生徒が在籍するなど、多文化共生を学ぶ環境が整っており、この環境が人権教育の推進に繋がっている。教育の基盤にグローバル・スタディが根付いていると評価できる。

(2) 幸せな未来の創造に向けて行動する力を育成する国際教育の推進

- ・市立浦和中学校の生徒がオーストラリアへのホームステイ先の子どもとの交流を、高校卒業後も継続している例がある。国際交流は、生徒の将来に種をまく取組であると評価しているので、継続して推進していただきたい。

(3) 社会のつながりの中でよりよく生きる力をはぐくむキャリア教育の推進

- ・受入れ事業所が店舗型の業種に偏りがあるように見受けられる。業種の幅を増やす工夫や業種ごとの受入れ数を集計してはいかがか。

(6) 国際バカロレアの教育によるグローバル人材の育成

- ・大宮国際中等教育学校は独特で孤立しがちなので、他の学校と積極的に交流していただきたい。

(7) 一人ひとりを大切にした人権教育の推進

- ・教育行政方針に主権者教育・法教育についての記載が見当たらない。いじめ防止、人権教育の土台として主権者教育・法教育があるものと考えてるので検討いただきたい。

(9) 不登校等児童生徒への支援の充実と「学びの多様化学校」の設置

- ・社会的自立につながる記載がないが、どのように効果を確認していくのか、見通しを持っていたきたい。
- ・義務教育でオンラインでの授業の出席も可能な、いとり学園を開校したことは大変意義のある取組であり、高く評価している。
- ・いとり学園の卒業後の進路先として、公立の通信制高校の設置を期待しているので、長期的には検討いただきたい。

(その他)

- ・市教育委員会も学校も、グローバル社会がどうあるべきか認識が徹底されていないように見受けられる。グローバル教育の原点に還り、より意識するように、国連で採択される子どもの権利条約の掲示や、多様なルーツを持つ児童生徒、外国籍児童生徒への指導内容の共有などの取組を提案する。

◆ 教育行政点検評価委員会委員の意見

3 人生100年時代を輝き続ける力の育成

(2) 子どもの学び・親子の育ちの支援の充実

- ・「親の学習事業」は子どもの命に係わる重要な事業であるので、人の集まる場所を活用し、駅にポスターを掲示するなど、広報に力を入れていただきたい。
- ・少子化は『少親化』でもある。保護者が孤立することのないよう、「親の学習事業」に引き続き取り組みんでいただきたい。

(4) 科学館・博物館・美術館の専門性を生かした学校との連携と生涯学習環境整備の推進

- ・青少年宇宙科学館による出前授業は好評であるため、より多くの学校や児童生徒に活用されるよう、積極的に広報及び周知を図っていただきたい。
- ・報告書に記載はないが、うらわ美術館でのお気に入りの絵を1枚だけスマートフォンで撮影してもよいという取組は、撮った写真を見て改めて実物を見たくなる、という相乗効果がある。DX時代における美術館運営の好事例であり、高く評価している。今後もこうした魅力的な取組を継続・発展させていただきたい。

(6) 安全・安心に向けた公民館・図書館施設リフレッシュの推進

- ・建替え、複合化、修繕等の選択に関する施設リフレッシュの基本方針については、市民に十分伝わっているとは言い難い状況であると考え。地域住民のため、市としての整備方針を明確に示すとともに、自治会長だけでなく、公民館利用者をはじめとする幅広い関係者の意見を丁寧に把握していただきたい。

(7) 次世代に向けた歴史文化資源の保存・継承・活用

- ・クラウドファンディングの推進に当たり、事業の趣旨や目的を広く周知するため広報が重要であると考え。ふるさと納税型に加え、現在実施されているような一般的なクラウドファンディングサイト等の活用も検討いただきたい。

(その他)

- ・大宮図書館は機能のみならず、建築空間としても非常に優れた施設であり、市民が寛ぐ場所や学ぶ場所としてニーズを満たし、市民生活に対して付加価値を提供していることを示す好例である。開館7年目であり、運営状況が安定して目立ちにくい、その価値を再度認識していただきたい。
- ・大宮図書館は一例であるが、さいたま市の教育行政が市民に提供している価値は、毎年の点検評価報告書の記載のほかにも、数字やデータでは十分に表現しきれないものとして数多く存在し、市民の幸福に寄与している。こうした数値化しにくい価値についても認識し、日々の仕事の励みにしていただきたい。

◆ 教育行政点検評価委員会委員の意見

4 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実

(1) 子どもたちのエージェンシーを地域総掛かりではなくむコミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進

- ・スクール・コミュニティが閉じた存在であり、市教育委員会はその外部から関与する組織であるかのように保護者から認識され、市教育委員会の情報がいきわたっておらず、市教育委員会と学校とスクール・コミュニティがどのように連携しているか全体像が十分に見えていない可能性がある。保護者の理解と信頼をさらに高めるため、各主体の役割や連携を丁寧に説明いただきたい。
- ・各学校が周辺団体（PTA、青少年育成会等）と連携していただきたい。また、学校だけでなく市教育委員会もリーダーシップを発揮し、スクール・コミュニティの理念を発信していただきたい。

(2) チャレンジスクールを通じた学びの輪・地域の輪づくりの充実

- ・ボランティアを契機として教員を志望するようになった事例もある。子どもや教育に関心を持つ人材を育む機会としても重要であるので、より多くの市民に参加を呼びかけていただきたい。
- ・他の事業とも連携してチャレンジスクールのボランティアスタッフを確保していただきたい。

(3) 子どもを見守る学校安全ネットワークの推進

- ・子ども安全協定について、最初の頃と比べて協力団体のシールを目にする機会が減少しているように見受けられる。制度の実効性や市民への認知度を維持・向上させるためにも、タクシーや運送会社などへ協力団体へのシールの再交付や協定内容の見直しを検討していただきたい。
- ・ながら見守りボランティアの登録者が増え、見守り活動の広がりがうかがえる。子どもたちの安全確保をさらに充実させるため、市のPTA協議会への協力依頼などを検討いただきたい。
- ・共働き世帯の増加により、昼間人口が各家庭から職場や事業所へと移っている現状から、ながら見守りについて、地域の事業所の参画も検討いただきたい。
- ・子どもを守るものとして警察との連携について強く意識すべきであり、非常時だけでなく常時連携する存在として、自転車等の交通安全教育、またPCやスマホ利用のサイバーセキュリティ教育を中心に、管轄署との連携を強化していただきたい。警察が実施する非行防止の出前講座は、児童生徒の健全育成や犯罪防止教育の観点から高い教育的効果が期待されるので、全学校で年間計画に組み込むことも検討いただきたい。

(その他)

- ・地域の見守りの際には自治会だけでなく、青少年育成さいたま市民会議の活動にも注目していただきたい。

◆ 教育行政点検評価委員会委員の意見

5 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備

(2) 質の高い学校教育を実現するための魅力ある人材養成・確保・育成の一体化

- ・未来(みら)くるワーク体験での先生の体験は、教職員志願者の裾野拡大にも資するものと考えられるので、積極的に検討いただきたい。
- ・ティーチャー・リターン選考について、一時離脱した方が再び教職を選択したいと思えるよう、働き方改革や職場環境の改善を進めていただきたい。また、警察で導入している SPI での選考など、受験しやすい選考制度の構築も検討いただきたい。

(3) 子どものスポーツ・文化活動の体制整備 ～部活動の地域展開～

- ・部活動に外部指導員の参画が進む中、その指導方針により問題が起こる前に責任の所在などを整理していただきたい。教育活動としての意義を周知する研修を徹底していただきたい。
- ・子どもたちの声が届くように、部活動相談窓口の設置や定期的な部活動のアンケート実施等のフィードバック体制の整備を検討していただきたい。
- ・部活動の地域展開は、その趣旨や必要性について保護者に十分伝わっていないように感じるため、学校長のリーダーシップだけでなく、コミュニティ・スクールと同じく教育委員会の後押しが必要であると思う。また、部活動の地域展開は比較的短期間での方向転換を求められる施策だが、丁寧に対応していただきたい。

(5) 次世代に向けた持続可能で質の高い教育環境整備の推進

- ・義務教育学校整備の入札不調という課題はあるが、人件費や資材高騰など、厳しい条件下で事業を進めている関係者の努力は十分理解できる。しかしながら、整備の遅延は子どもたちの学習環境への影響が懸念されるので、早期の事業実現に向けて尽力していただきたい。
- ・義務教育学校の将来的な利用者でもある未就学児も含め、地域の方へ学校整備の目的や進捗状況について積極的な情報発信に努めていただきたい。

(6) 教育環境の充実を目指す水泳学習の民間委託化の推進

- ・落水事故を防ぐ目的で水泳学習を持続的に実施していただきたい。
- ・救命のために着衣泳の機会を1回でも子どもたちに提供していただきたい。埼玉県は川の災害のリスクが高く、命を守る水泳授業のニーズは高いものと考えている。

(その他)

- ・児童生徒数の増加に対応するため継続的に学校整備が求められているという事実は、さいたま市の教育が支持され続けている証左だと評価している。さいたま市教育委員会が教育行政を推進していくことを応援している。